



人生・農業 リセット再出発!

RESET RESET RESET 第5回



国際線航空会社乗務員・作家
黒木安馬

「上善如水」

という言葉がある。

酒の銘柄のことではない。老子曰く、「上善は水の如し。水はよく万物を利して争わず、衆人の憎む所に居る」に由来する。水は、相手の器の形に従って自由自在に姿を変える柔軟性を持っている。あらゆる生物に多大な恩恵を与えつつ、水は人の嫌がる低きに流れ行く謙虚さを持つ。それでいて硬い岩をも打ち砕く力を秘めている。理想的な生き方をしようとするならば水のあり方に学べと言う教えである。

我が家の隣に大工さん夫婦がいる。真面目でよく働く彼に棟梁がボイナスをはずんでくれた。家に帰ってその給料袋を奥さん
に手渡すと、喜びながら仏壇の引き出しに
しまった。ビールで乾杯しようとする奥さ
んに返事をしないまま、俺は外で一杯やっ
てくると彼は外出した。それから半年後、
懸命に働いてまたボイナスを持ち帰った。
奥さんは喜んで受け取り再びタンスにし
ま
いこんだ。彼はテーブルをひっくり返して
家を飛び出した。途方にくれて泣きなが
ら
奥さんは我が家に駆け込んできた。私は彼
に会った。俺が一所懸命に働いたのは、あ
いつの喜ぶ顔が見たかったから、それを給
料袋を開けて見もしないで...と言う。だっ
たらそう言えはいじやないか。言わなく
ても分かり合うのが夫婦でしょうと彼。

1950年熊本県生まれ。高校在学中にAFS奨学生で米国留学後、早稲田大学を経て航空会社に入社。業界の常識を破る「カラオケ・フライト」を企画して計7便飛ばし、後に北島三郎らによる「世界初1万メートル上空機上コンサート」も実現させる。自宅は28歳の時に1300坪の土地を開墾して2年半がかりでプールを手作りし、テニスコート、コンサートホールも造る。自宅ステージでは加藤登紀子、山下洋輔、坂田明、尾崎紀世彦など多くのライブやピカソ展を企画し、地域活性化触発運動「グループ・ザ・田舎るちあ」を主宰している。多くの実体験に基づいた人生成功哲学の講演や著書は大手企業でも人気を博して乗務の間をぬって全国を飛び回っている。著書に「面白くなくちゃ人生じゃない!」(KKロングセラーズ)、「出過ぎる杭は打ちにくい」(ワニブックス)、「リセット人生再起動マニュアル」(ワニブックス)、「小説・球磨川」(ワニブックス上下巻)がある。E-mail: kuroki-yasuma@love.biglobe.ne.jp

さてこの問題はどこにあるか? 人は良かれと思って行動している。相手に喜んでもらおう、誉めてもらおう、認めてもらおうと思っ
ていつも行動している。運動会で子供が無心に走るのも、茶パツ、ピアスも根底にあるのは相手にメッセージを送り続けているのだ。「人」が「云う」で「伝える」になる。云わない限りは伝わらない。では誰に向かって伝えようとしているのか。それは愛するアナタに発信されているのである。誉め言葉とお世辞は違う。いいなど思ったら些細なことでもいつでも口に出して相手に伝えてあげる。身近な相手だからこそ、それが必要であり、それが受け止めてくれるあなたの愛である。

最近の本『チーズはどこに消えた?』に出てくるのは、詰め込んだ記憶や知識は課題が決まりきっている場合は効果がある、だが突然、台が移動したりチーズが消えたりする「状況の変化」に直面すると、記憶や知識がむしろ妨げになって動きが取れなくなる、ということである。濁った水を入れたプールでネズミを泳がせる実験をする。場所を記憶する遺伝子が欠けたネズミはいつものように必死に泳いで何とか足場の台を発見するが、普通に習慣訓練で場所を記憶していたネズミはすぐにパニックに陥る。

明るく、元気で遊び好き、欲が深く、くよくよ心配しない。朗らかでありまじこだわらない、水が器に従うような性格、そのええ加減さが人生を面白くする。笑いが無く几帳面で真面目過ぎる人とは逆に、自然治癒力も高い。

年年歳歳、花相似たり。歳々々々、人同じからず。似たような花は来年も咲くが、人生は二度と無い。大切な身近な人を、自分を見直してみるのも一考である。